

広島県の職場における熱中症による死傷災害の発生状況

1 職場における熱中症による死傷者数の推移（平成27年～令和7年）

平成27年～令和7年の職場における熱中症による死亡者及び休業4日以上の上業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）をみると最少は3人で、最多は令和7年の58人であった。

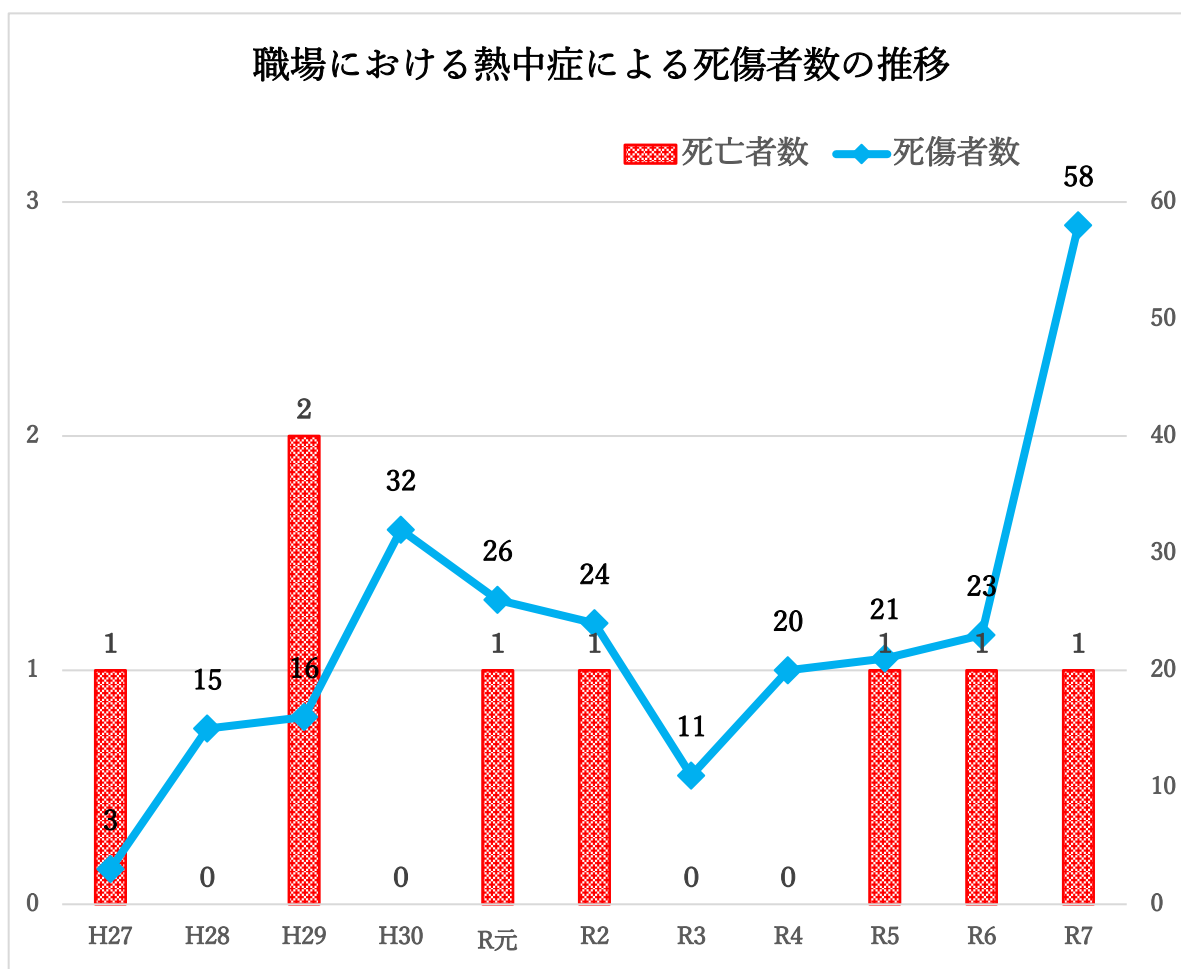
令和7年の死傷者数は、対前年比で35人の大幅な増加であった。

死亡者は1人で、建設業（土木工事業）で発生している。

▶ 職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
3	15	16	32	26	24	11	20	21	23	58
(1)	(0)	(2)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)	(1)

※（ ）は死亡者数で内数



2 業種別発生状況（平成 27 年～令和 7 年）

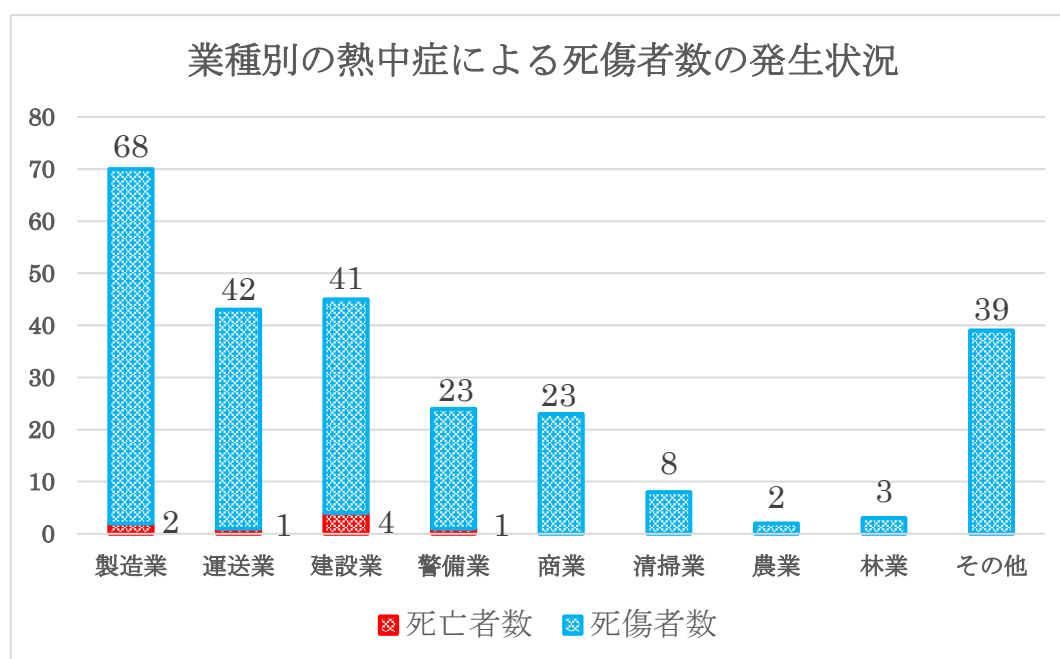
平成 27 年～令和 7 年の業種別の熱中症による死傷者数をみると、製造業が最も多く、運送業、建設業と続いている。これらの 3 業種で全体の約 60%を占めているが、近年はその他の業種においても発生している。

令和 7 年は、製造業が最多の 20 人、建設業が 12 人、商業が 9 人、その他が 8 人、運送業が 7 人、警備業及び清掃業が各 1 人であった。死亡災害は建設業（土木工事業）で 1 人発生した。

▶ 熱中症による死傷者数の業種別の状況（人）

業種	年	年										合計	
		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6		R7
製造業		0 (0)	5 (0)	7 (0)	7 (0)	9 (1)	8 (1)	2 (0)	1 (0)	7 (0)	2 (0)	20 (0)	68 (2)
運送業		0 (0)	2 (0)	2 (0)	8 (0)	1 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (1)	7 (0)	7 (0)	42 (1)
建設業		0 (0)	3 (0)	6 (2)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (0)	2 (1)	12 (1)	41 (4)
警備業		2 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	23 (1)
商業		0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	9 (0)	23 (0)
清掃業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	8 (0)
農業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)
林業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)
その他		1 (0)	3 (0)	0 (0)	7 (0)	4 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	1 (0)	5 (0)	8 (0)	39 (0)
合計		3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	58 (1)	249 (8)

※（ ）は死亡者数で内数



3 月・時間帯別発生状況（平成27年～令和7年）

(1) 月別発生状況

平成27年～令和7年の月別の熱中症による死傷者数をみると、全体の約7割以上が7月又は8月の2か月間に集中して発生しており、死亡災害も7月、8月に集中している。

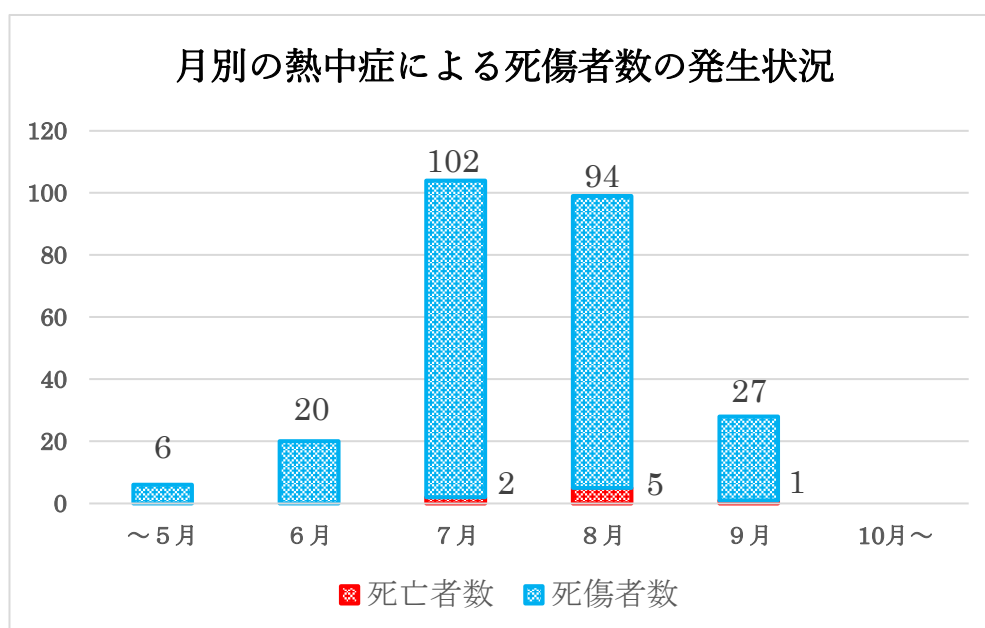
令和7年も同様に7月又は8月に集中して発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の月別の状況

年 月別	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
～5月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	6 (0)
6月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	8 (0)	20 (0)
7月	1 (0)	10 (0)	7 (1)	18 (0)	9 (1)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	8 (0)	7 (0)	30 (0)	102 (2)
8月	2 (1)	4 (0)	8 (1)	11 (0)	8 (0)	18 (1)	4 (0)	9 (0)	10 (1)	10 (1)	10 (0)	94 (5)
9月	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	8 (1)	27 (1)
10月～	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (0)	23 (0)	58 (1)	249 (8)

※ 「～5月」は1月～5月まで、「10月～」は10月～12月までの合計

※ ()は死亡者数で内数



(2) 時間帯別発生状況（平成27年～令和7年）

平成27年～令和7年の時間帯別の熱中症による死傷者数をみると、14時台から17時台まで高止まりの状態が発生している。作業終了後の帰宅中又は帰宅後に体調が悪化し、夜間病院へ搬送されるケースも散見される。

また、～9時台での発生も多く、日常の健康管理（睡眠不足、体調不良、前日の飲酒等、朝食の未摂取等）も重要となってくる。

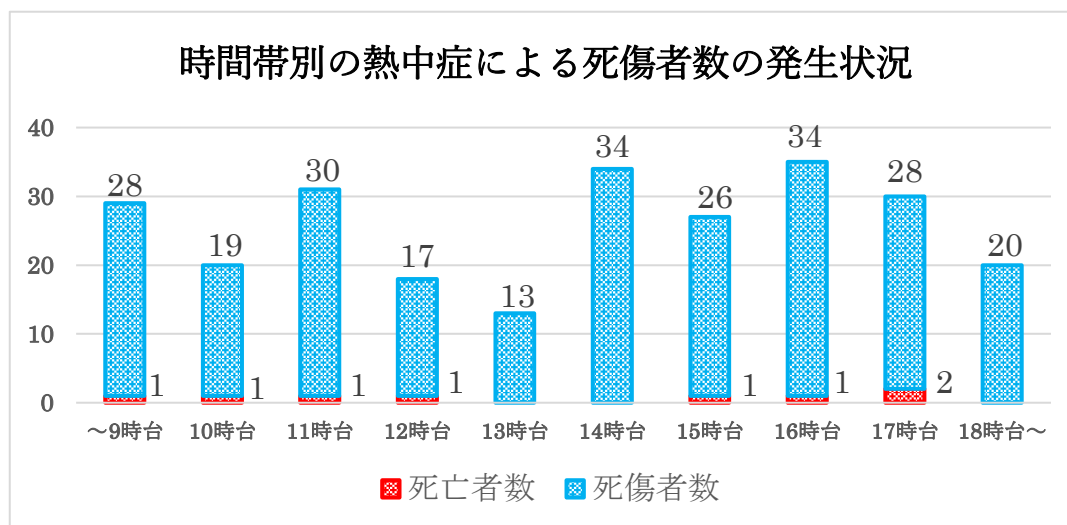
令和7年は、いずれの時間帯でも多く発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の時間帯別の状況

年 時間帯別	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
～9時台	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (1)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	7 (0)	28 (1)
10時台	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	19 (1)
11時台	2 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (1)	3 (0)	9 (0)	30 (1)
12時台	1 (1)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	6 (0)	17 (1)
13時台	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)
14時台	0 (0)	3 (0)	2 (0)	7 (0)	5 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	5 (0)	34 (0)
15時台	0 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	7 (1)	26 (1)
16時台	0 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	3 (0)	3 (1)	6 (0)	34 (1)
17時台	0 (0)	2 (0)	4 (2)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	8 (0)	28 (2)
18時台～	0 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	6 (0)	20 (0)
合計	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	58 (1)	249 (8)

※ 「～9時台」は0時から9時台まで、「18時台～」は18時から23時台までの合計。

※ ()は死亡者数で内数



4 経験年数別発生状況（平成 27 年～令和 7 年）

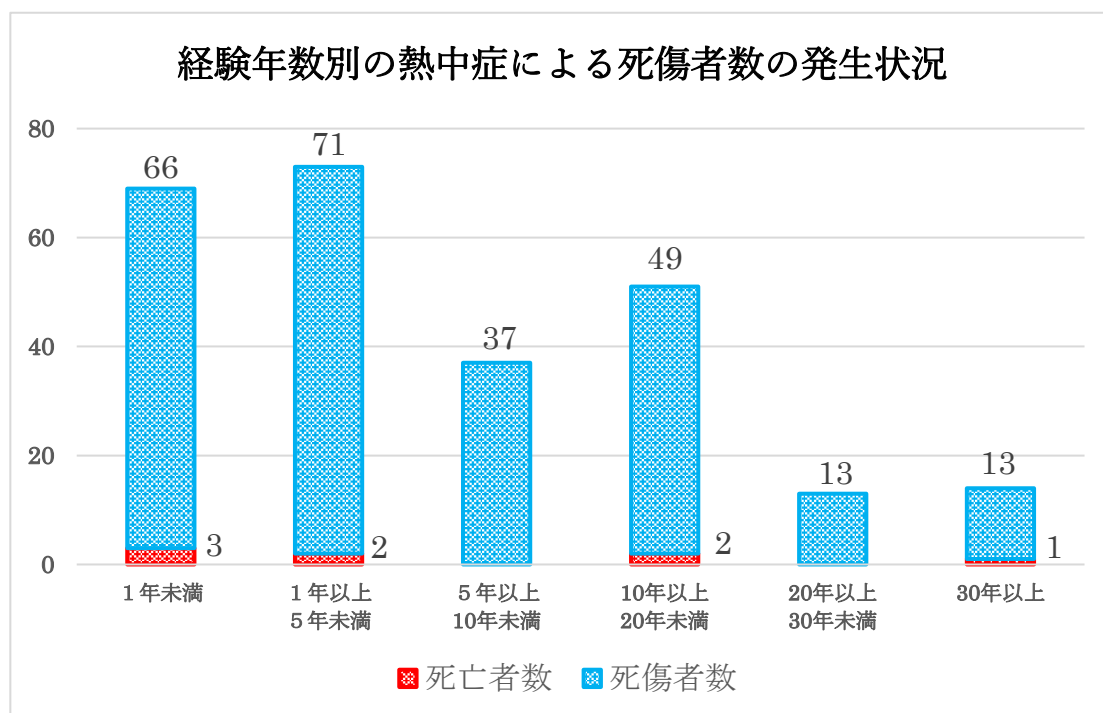
平成 27 年～令和 7 年の経験年数別の死傷者数をみると、1 年未満及び 1 年以上 5 年未満で多く発生している。近年は経験年数を問わず発生しているため、熱中症予防の教育・研修等の実施が重要である。

令和 7 年は、1 年以上 5 年未満が最多となっている。

▶ 熱中症による死傷者数の経験年数別の状況（人）

年 時間帯別	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
1 年未満	2 (1)	4 (0)	5 (1)	12 (0)	7 (0)	3 (0)	3 (0)	5 (0)	6 (1)	3 (0)	16 (0)	66 (3)
1 年以上 5 年未満	0 (0)	3 (0)	5 (1)	10 (0)	7 (0)	7 (0)	6 (0)	5 (0)	5 (0)	7 (1)	16 (0)	71 (2)
5 年以上 10 年未満	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (0)	6 (0)	1 (0)	6 (0)	0 (0)	3 (0)	10 (0)	37 (0)
10 年以上 20 年未満	1 (0)	5 (0)	5 (0)	4 (0)	3 (0)	7 (1)	1 (0)	2 (0)	6 (0)	5 (0)	10 (1)	49 (2)
20 年以上 30 年未満	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	13 (0)
30 年以上	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	13 (1)
合計	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	58 (1)	249 (8)

※（ ）は死亡者数で内数



5 年齢別発生状況（平成27年～令和7年）

平成27年～令和7年の年齢別の熱中症による死傷者数をみると、すべての年代において熱中症が発生しているが、最多は50代、次いで40代での発生が多いが、近年は年齢を問わず発生しているため、全ての年齢層への対応が求められる。

さらに、60代以上の就業者数も増加していることから、高年齢労働者への配慮も求められる。

▶ 熱中症による死傷者数の年齢別の状況（人）

年 年代別	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
10代	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)
20代	0 (0)	4 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (0)	3 (0)	40 (1)
30代	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	12 (0)	32 (0)
40代	0 (0)	2 (0)	9 (0)	5 (0)	7 (0)	4 (0)	1 (0)	5 (0)	2 (1)	5 (0)	17 (0)	57 (1)
50代	1 (1)	3 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	7 (0)	1 (0)	3 (0)	7 (0)	6 (1)	18 (1)	62 (4)
60代	1 (0)	2 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (1)	3 (0)	7 (0)	5 (0)	5 (0)	4 (0)	39 (1)
70代以上	0 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (1)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	16 (1)
合計	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	11 (0)	20 (0)	21 (1)	23 (1)	58 (1)	249 (8)

※（ ）は死亡者数で内数

